

# Book Review

## 歯科医師とスタッフのための臨床検査 安全な口腔保健・医療に向けて

井上 孝 編著



Reviewer

康本征史 Masafumi Yasumoto  
(千葉県・康本歯科クリニック)

B5判, 164頁  
定価 5,880円  
(本体 5,600円+税 5%)  
医歯薬出版刊



昨年12月、国民生活センターから「歯科インプラント治療に係る問題—身体的トラブルを中心に—」が発表された。これもインプラント治療がある意味普及してきたことの証ではあるが、そのぶん決して安全な治療ともとらえられていないことも示している。

もちろん、医療がすべて成功裏に治療を終えるわけではないことから、トラブル（失敗例）が起こることは想定内ではある。だからといって、トラブルが容認されているわけではなく、できるかぎり起こさないよう研鑽を積むことが求められている。また、医療界に対しては、単なる医療水準の向上だけではなく、いかに安全でかつ安心できる医療の提供を、近年特に国民から強く要望されているということも、忘れてはいけないと常々思っている。

歯科医院に来院する患者さんは、それぞれ何らかの主訴をもっており、その主訴の背景を口腔診査や検査によっ

て的確な診断を行い、具体的な処置を行っていくが、日々臨床を行っているとき、その主訴だけに注目した非常に狭い領域において診査している自分に気がつく。特に、最近は高齢者層の患者さんが割合的にも増えている。高齢者であることがそのまま有病者であるわけではないが、やはり高血糖や高血圧といった内科的疾患による投薬を受けたり、脳血管障害をすでに患っていて、ワーファリンに代表されるような抗血栓薬を服用されている患者さんもめずらしくない。

筆者が歯科医師になった20年前は、団塊の世代も40歳代、高齢者の比率も今よりずっと少なく、抜歯などの処置を何も気にせず行っていた。それはそれで今思えばリスクの高い、危険なことをしていたと反省するが、さらに現在は20年前とは比べものにならないほど大きなリスクがあるといえよう。患者さんの治療に対する期待値が

著しく高まるなか、臨床検査をはじめとした検査結果から多くの情報を手に入れることで、リスクを低減することができる。

本書の著者である井上孝先生は、東京歯科大学臨床検査病理学講座教授として学生を教育するだけでなく、日本口腔検査学会理事長として、われわれ開業医の臨床現場における臨床検査の普及のために尽力しておられる。本書は学会認定医制度における必須教科書といえるほど、十分な内容を網羅している。生体検査、検体検査、口腔領域の検査、摂食・嚥下関連の検査について、それぞれの検査項目における意義・内容が述べられた後、20種類の主な全身疾患・病態において必要な検査、歯科治療上の注意点なども述べられるなど、臨床的にも、また大学教育における教科書としても、利用できる優れたものである。ぜひ、多くの方々に読んでいただきたいと思う。